

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 なごみ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成28年10月30日	評価結果市町村受理日	平成29年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200026-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護と医療が連携した日常生活の中でのリハビリを行っています。利用者の皆さんが生き生きとした顔・素敵な笑顔が自然とあふれるよう創意工夫し心のこもった、心の通った寄り添うケアに努めていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

喫茶店や散歩、買物など外出時に近隣の住民と挨拶を交わし話をしている。地域の行事に利用者と一緒に参加したり、事業所の催しには住民に参加してもらったりして地域の方と交流している。年1回家族アンケートを行い、家族の意見より職員間で話し合っ、家族が参加できるバーベキュー会を行った。かかりつけ医の受診は事業所が交換ノートを作成し看護職員が記入することで、家族、医師、事業所の連絡を密にしている。利用者の状態の変化に伴い、早い段階から終末期の対応について家族、かかりつけ医、事業所で話し合って支援している。家族やボランティアに協力をお願いして車椅子の方でも外出している。利用者が急に外出したい時に極力希望に沿うように対応するなどその人らしく過ごすことができるように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月に一度の職員会議では理念、心得の唱和をするなどし、理念の共有および介護に対する意識の向上につとめている。	管理者と職員は、毎月のミーティングで理念を唱和し共有を図っている。自宅にいるような雰囲気を作り、毎日のように外出の機会を設け、地域との関わりを大切に、その人らしく生活が送れるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや保育園等の運動会に参加している。また、チューリップやコスモス祭りなどにもドライブを兼ね出かけている。さらに近くの喫茶店に出向いたり、日常的な散歩を行っている。	日常的に散歩や喫茶店に出かけ、地域の方と交流をしている。地域の夏祭りや運動会にも参加をしている。事業所の夏祭りには近隣の方が多く参加している。踊りや大正琴、車いすの点検のボランティアも受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設主催の運営推進会議に自治会長や民生委員の方々に参加いただき、運営方針等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では 行政をはじめ警察・消防・自治会長・民生委員・ご家族が参加され、活動報告や事故報告をさせて頂き、意見交換を行うことでサービス向上に努めている。また、その議事録をご家族に発送している。	隣接された同一法人の事業所と合同で会議を行っている。消火栓の使用や水害対策など意見が出され訓練に取り入れた。ボランティアについて相談し消防署員の演奏会や車いすの点検ボランティアなどに繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき、事業所の状況報告や助言をいただくことができるよう、ひと月に1回程度事業所より訪問させていただいている。	介護認定の更新や書類の提出など市役所に行く時に、事業所の実情など相談している。市主催のケアマネ会議に出席し意見交換している。市の担当者が防災の資料を持って来た時に相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては、職員一同理解している。現場でも都度確認し事故が無い様見守っている。	外部研修会への参加や勉強会を行い拘束をしないよう取り組んでいる。不穏になる利用者に対して専門医に相談し家族の協力を得て対応を試みているが、困難な時は拘束している。定期的に職員間で話し合っているが拘束の解除には繋がっていない。	職員も拘束の弊害については理解しているが、緊急性を要し他の方法がないと判断した場合には、時間を限定して拘束を行なっている。今後も拘束の解除に向けて継続的な取組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、勉強会に必ず取り入れ虐待が見過ごされる事のないよう職員間で話し合いをしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会のテーマの一つとして取り入れている。また、利用者様が自立支援事業や成年後見制度を利用されているため大変勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は 入所前にご家族に十分な時間を用意していただき説明している。疑問点等の確認も行い、ご納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見をいただいたり利用者家族へのアンケートを実施している。ご家族との面会時は積極的に声掛けし、意見・要望を伺っている。	家族が来所した時に近況を伝え要望等を聞いている。年1回行う家族アンケートの意見から職員間で話し合い、家族参加のバーベキュー大会を行った。利用者の希望を聞いて、寿司や牛丼、喫茶などに出かけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で意見を聴く機会を設けている。また、管理者による個人面談を実施している。	管理者は、運営に取り入れたいと考え日常的に職員の意見を聞いている。ミーティングでも意見と要望を聞き話し合っている。職員の意見により物品の購入をしたり、レクリエーション担当を4人体制にしたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員がやりがいを持って働ける職場をめざし、一人ひとりの生活環境を理解し勤務体制を整え、介護職としてのキャリアアップができるようトップマネジメント会議等を通じ指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やキャリアに応じて研修の参加を促したり、月1回の全体会議を利用して事業所内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度各事業所の管理者が集まり、外部からの講師による研修や介護支援専門員は、2か月に一度の行政によるケアマネ会議の参加により同業者との交流をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し、利用者様の今までの生活を理解した上で、また、本人様にも理解していただいて入所していただくよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦労を労うとともに、入所にあたり本人様とご家族様が円滑な関わりができるよう援助していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様が入所にあたり、不安や希望を訴えることのできる環境を整え、本人様とご家族様が納得されるようなプランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人一人のいままでの生活や経験を知ることで、その時々々の知恵をいただき、お互いに支えあう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にはご家族を感謝していただくように声掛けするとともに、ご家族にはご利用者様との絆の大切さを声掛けすることで本人様をより良い環境で支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の電話希望については、事務所にて対応できるようにしている。また、毎月習字講習などを実施し文字に親しんでいる。	利用開始時の「本人らしく暮らしていただくための情報シート」を活用し馴染みの場所や人を把握している。来所時に記入する面会簿から関係を把握して再訪をお願いしている。本人が馴染みの場所に行けるように家族に協力をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士共通の会話が弾む事ができるように、職員は状況により声掛けや情報提供できるよう心がけている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族には、お手紙を出したり、また、医療機関に入院された利用者様には、病院に伺い様子の確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより生活や性格を知ること。また、入所されてからの様子を見ながら、できる限り今までの生活ができるよう周囲の環境を整え支援していく。	職員は、食事や入浴、散歩など1対1の時に思いや意向を聞いている。利用者の思いを大切に考え、意思表示をし易いように声を掛けている。言葉により意思表示が困難な方はジェスチャーにより把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。施設生活での声掛けや他の利用者との関わりを観察しながらその方らしい生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活のかかわりの中で、利用者の状況を観察・把握し、職員間で情報を共有し、利用者の支援にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様らしい生活をするために本人様・ご家族・地域関係者等での運営推進会議を開催し、現状を常に共有し、また、意見・要望を吸収し介護計画に反映できるようにしている。	職員は毎月モニタリングを行っている。家族には来所時や電話にて要望を聞き、医師の意見も反映させ職員間で検討して計画を作成している。管理者は、定期的にモニタリングを行っているが内容の変化が無いためどのように取り組むべきか悩んでいる。	利用者が事業所でより良く暮らすため、必要な関係者の意見やアイデアを反映させた計画書となるように、職員間で話し合うことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の観察を記録に残し、変化がみられる時は、朝晩の申し送り時に職員間で状況を共有、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の状況が皆さんそれぞれ違うため、本人様をはじめご家族の意向を確認しながら安心していただけるような支援をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様をはじめご家族・地域関係者が参加する運営推進会議で地域資源の活用等のご意見や助言を頂き、それらを参考にしながら利用者の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医は、2週間に1度往診があり、些細なことでも看護師が相談できる環境であり、連携はとれている。	本人と家族の意思を尊重し医療機関を選択している。かかりつけ医の受診は家族にお願いしている。事業所が医療機関との交換ノートを作成して、看護職員が記入し家族に渡している。受診の結果を家族に確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の状況把握ができるよう職員は見守り、変化の状況を看護師に伝えることができるよう環境の整備をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、看護師及び管理者がほぼ毎日医療機関に出向いて状況の把握に努め、病院関係者との情報を密に取り、また、ご家族からの相談も受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側から終末期の在り方を入所時から本人様及びご家族に確認・意向を伺うようにしている。また、医療機関及び他施設との協力体制を整えている。	契約時に、終末期の対応は可能であることを本人と家族に伝えている。状態の変化に伴い早い段階より家族、医師と話し合っている。看取り段階の利用者もいる。看護職員が看取り期の支援方法について職員に教育したり、相談を受けたりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、マニュアル化し看護師への連絡、ご家族への連絡、応急処置・救急車への対応など勉強会を実施、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に運営推進会議への参加を頂き、ご意見等を伺うと共に、昼間と夜間想定避難訓練・消火訓練・非常召集訓練等を行っている。	夜間想定を含め、火災と水害に対する避難訓練を消防署の指導のもとに実施している。家族と自治会に案内し、参加してもらっている。米と水などの非常用食料と非常用の備品を備蓄している。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような場面でも本人様が納得できるよう対応している。また、他の利用者様にも理解が得られるよう職員はバランスの良い対応をしている。	年上である利用者の人格を尊重した言葉掛けや介護を心掛けている。食事時に食べられないものがあれば無理をしなくても良いと伝えたり、排泄時には他の利用者に気付かれないように誘ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の表情や変化に気づくように努め、思いや希望を言葉に出していただくようにコミュニケーションをとるよう職員は心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のお天気や状況により違いがあるが、できる限り利用者の意向を聞いてスケジュールをきめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望により美容院を予約。近隣にあるため店舗に直接出かけられたりする。衣類は本人様たちが選べる限り自由にされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下処理など出来ることは依頼しています。また、食事時間を楽しく過ごせるよう職員も一緒に昼食を摂り、何気ない会話をしながら表情を見守っています。	利用者から希望を聞きユニット毎に献立を決めている。皮むきを手伝ってもらったり、手作りのおやつと一緒に作ったりしている。家族からの希望で、居室で一緒に食事する方もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・晩の摂取量の確認により、足りない時など栄養補助食品やスポーツドリンクなどの提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方にはその都度口腔ケアの大切さを声掛けし実施いただいている。また、介助が必要な方には居室にて職員によるケアを実施している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパンを使用の方などに対し布パンツの快適さをお知らせしてトイレに行かれるよう声掛け見守りをしている。	出来る限りトイレにて排泄できるように支援している。夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいる。排泄記録を参考に、誘導時間など職員間で話し合いリハビリパンツから布パンツに替わった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の観察および確認を実施し、利用者一人ひとりの状況を把握しながら対応している。また、食事も野菜中心の献立にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中時間帯の入浴となっている。利用者様の介護状況に合わせて特浴、個浴に分け対応している。	入浴は週3日であるが希望があれば他の日でも入浴できる。入浴を嫌がる方には時間をずらしたり介助者を変えたりして対応している。入浴剤やジャグジー、湯温など利用者の希望を聞き楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡などの時間は決っていないが、それぞれの利用者の状況で自由に居室で休まれたり、リビングで過ごされたりと就寝時間も決まっていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、看護師の指導の下、それぞれの利用者の薬の把握に努め、服薬後の状況を観察し、異常がある場合は、看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴等に合った家事を手伝って頂いている。得意なことは自ら率先してやって頂くよう声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や利用者の希望次第で外に散歩に出かけたりテラスでの日光浴を行っている。また、年間行事計画を立て、花見や地域の祭に参加するなどの外出支援をしている。	毎日のように散歩している方もある。買物や喫茶店、外食に職員と一緒に掛けている。急に外出の希望があった時でも極力希望に沿うことができるように対応している。車椅子の方も家族やボランティアに協力をお願いして外出している。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、事務所で預かっている利用者の方もある。利用者の中には、職員に買い物を頼まねたりと状況に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者をご家族に連絡したい時など自ら事務所に立ち寄ることのできるようオープンにしてある。手紙など出すことができるよう住所などの字をかく練習をレクリエーションに取り入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	細やかな室内換気や空調の調節により快適な環境を整えている。また、日中の遮光にはブラインドを活用している。食堂のテーブルや壁には季節の花(利用者が作成の折り紙等)を飾っている。	リビングや居室前に利用者と一緒に作成した季節の作品や庭で採れた花を飾っている。昔使用していたソファを家族からいただき利用者が集まれるように配置している。玄関先に利用者の作品を展示することで利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置、中庭には縁台、エントランスには椅子などあちらこちらにおいて腰を下ろすことのできるよう設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族と相談の上、ご本人に合ったレイアウトになるようしている。また、壁に写真や作品などを飾っている。	遺影や机、テレビ、ラジオ、カレンダーなど馴染みの物を持ち込んでいる。掃除を自分で行なっている方もある。利用者と家族、職員が話し合って家具を配置し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が準備しなくても朝夕、お経の本や歌の本など利用者が用意してお経が始まったり歌が聞こえたりと、自然に日課となっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	(株)共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 やすらぎ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成28年10月30日	評価結果市町村受理日	平成29年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200026-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の皆様が一人ひとり個性あふれるユニットです。 毎日、散歩やレクリエーションでカラオケ、ゲーム、運動などをしています。 外出支援では利用者様の希望を聞き、喫茶店や公園などにを行っています。 創意工夫し心の通った寄り添うケアに努めていきたいと思ひます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月に一度の職員会議では理念、心得の唱和をするなどし、理念の共有および介護に対する意識の向上につとめている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや保育園等の運動会に参加している。また、チューリップやコスモス祭りなどにもドライブを兼ね出かけている。さらに近くの喫茶店に出向いたり、日常的な散歩を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設主催の運営推進会議に自治会長や民生委員の方々に参加いただき、運営方針等を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では 行政をはじめ警察・消防・自治会長・民生委員・ご家族が参加され、活動報告や事故報告をさせて頂き、意見交換を行うことでサービス向上に努めている。また、その議事録をご家族に発送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき、事業所の状況報告や助言をいただくことができるよう、ひと月に1回程度事業所より訪問させていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては、職員一同理解している。現場でも都度確認し事故が無い様見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、勉強会に必ず取り入れ虐待が見過ごされる事のないよう職員間で話し合いをしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の勉強会のテーマの一つとして取り入れている。また、利用者様が自立支援事業や成年後見制度を利用されているため大変勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は 入所前にご家族に十分な時間を用意していただき説明している。疑問点等の確認も行い、ご納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見をいただいたり利用者家族へのアンケートを実施している。ご家族との面会時は積極的に声掛けし、意見・要望を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の全体会議で意見を聴く機会を設けている。また、管理者による個人面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員がやりがいを持って働ける職場をめざし、一人ひとりの生活環境を理解し勤務体制を整え、介護職としてのキャリアアップができるようトップマネジメント会議等を通じ指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やキャリアに応じて研修の参加を促したり、月1回の全体会議を利用して事業所内で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度各事業所の管理者が集まり、外部からの講師による研修や介護支援専門員は、2か月に一度の行政によるケアマネ会議の参加により同業者との交流をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談を重視し、利用者様の今までの生活を理解した上で、また、本人様にも理解していただいて入所していただくよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までのご苦労を労うとともに、入所にあたり本人様とご家族様が円滑な関わりができるよう援助していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様が入所にあたり、不安や希望を訴えることのできる環境を整え、本人様とご家族様が納得されるようなプランの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人一人のいままでの生活や経験を知ることで、その時々々の知恵をいただき、お互いに支えあう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にはご家族を感謝していただくように声掛けするとともに、ご家族にはご利用者様との絆の大切さを声掛けすることで本人様をより良い環境で支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の電話希望については、事務所にて対応できるようにしている。また、毎月習字講習などを実施し文字に親しんでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士共通の会話が弾む事ができるように、職員は状況により声掛けや情報提供できるよう心がけている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了されたご家族には、お手紙を出したり、また、医療機関に入院された利用者様には、病院に伺い様子の確認をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際のアセスメントにより生活や性格を知ること。また、入所されてからの様子を見ながら、できる限り今までの生活ができるよう周囲の環境を整え支援していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やアセスメントで本人様の生活歴を知るよう努めている。施設生活での声掛けや他の利用者との関わりを観察しながらその方らしい生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活のかかわりの中で、利用者の状況を観察・把握し、職員間で情報を共有し、利用者の支援にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様らしい生活をするために本人様・ご家族・地域関係者等での運営推進会議を開催し、現状を常に共有し、また、意見・要望を吸収し介護計画に反映できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の観察を記録に残し、変化がみられる時は、朝晩の申し送り時に職員間で状況を共有、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の状況が皆さんそれぞれ違うため、本人様をはじめご家族の意向を確認しながら安心していただけるような支援をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様をはじめご家族・地域関係者が参加する運営推進会議で地域資源の活用等のご意見や助言を頂き、それらを参考にしながら利用者の日々の生活に反映している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医は、2週間に1度往診があり、些細なことでも看護師が相談できる環境であり、連携はとれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の状況把握ができるよう職員は見守り、変化の状況を看護師に伝えることができるよう環境の整備をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、看護師及び管理者がほぼ毎日医療機関に出向いて状況の把握に努め、病院関係者との情報を密に取り、また、ご家族からの相談も受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側から終末期の在り方を入所時から本人様及びご家族に確認・意向を伺うようにしている。また、医療機関及び他施設との協力体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、マニュアル化し看護師への連絡、ご家族への連絡、応急処置・救急車への対応など勉強会を実施、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に運営推進会議への参加を頂き、ご意見等を伺うと共に、昼間と夜間想定避難訓練・消火訓練・非常召集訓練等を行っている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような場面でも本人様が納得できるよう対応している。また、他の利用者様にも理解が得られるよう職員はバランスの良い対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の表情や変化に気づくように努め、思いや希望を言葉に出していただくようにコミュニケーションをとるよう職員は心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のお天気や状況により違いがあるが、できる限り利用者の意向を聞いてスケジュールをきめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望により美容院を予約。近隣にあるため店舗に直接出かけられたりする。衣類は本人様たちが選べる限り自由にされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などの下処理など出来ることは依頼しています。また、食事時間を楽しく過ごせるよう職員も一緒に昼食を摂り、何気ない会話をしながら表情を見守っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・晩の摂取量の確認により、足りない時など栄養補助食品やスポーツドリンクなどの提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方にはその都度口腔ケアの大切さを声掛けし実施いただいている。また、介助が必要な方には居室にて職員によるケアを実施している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパンを使用の方などに対し布パンツの快適さをお知らせしてトイレに行かれるよう声掛け見守りをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の観察および確認を実施し、利用者一人ひとりの状況を把握しながら対応している。また、食事も野菜中心の献立にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中時間帯の入浴となっている。利用者様の介護状況に合わせ特浴、個浴に分け対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡などの時間は決っていないが、それぞれの利用者の状況で自由に居室で休まれたり、リビングで過ごされたりと就寝時間も決っていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、看護師の指導の下、それぞれの利用者の薬の把握に努め、服薬後の状況を観察し、異常がある場合は、看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴等に合った家事を手伝って頂いている。得意なことは自ら率先してやって頂くよう声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気や利用者の希望次第で外に散歩に出かけたりテラスでの日光浴を行っている。また、年間行事計画を立て、花見や地域の祭に参加するなどの外出支援をしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、事務所で預かっている利用者の方もある。利用者の中には、職員に買い物を頼まねたりと状況に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のご家族に連絡したい時など自ら事務所に立ち寄ることのできるようオープンにしてある。手紙など出すことができるよう住所などの字をかく練習をレクリエーションに取り入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	細やかな室内換気や空調の調節により快適な環境を整えている。また、日中の遮光にはブラインドを活用している。食堂のテーブルや壁には季節の花(利用者が作成の折り紙等)を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置、中庭には縁台、エントランスには椅子などあちらこちらにおいて腰を下ろすことのできるよう設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族と相談の上、ご本人に合ったレイアウトになるようしている。また、壁に写真や作品などを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が準備しなくても朝夕、お経の本や歌の本など利用者が用意してお経が始まったり歌が聞こえたりと、自然に日課となっている。		